

(2015年4月発行)

日本胃癌学会ニュース

日本胃癌学会 企画・広報委員会発行

第87回日本胃癌学会総会報告

第87回日本胃癌学会総会 会長 二宮基樹（広島市立広島市民病院外科）

第87回日本胃癌学会総会は35年ぶりに広島の地で、2015年3月4日（水）～6日（金）の3日間にわたりリーガロイヤルホテル広島、メルパルク広島、広島県立総合体育館武道場を会場として開催されました。

本総会には主題454題、一般演題604題、海外演題86題、計1,144題と過去最大数の演題応募を戴きました。そして、会員1,379名、非会員592名、海外から132名、メディカルスタッフおよび研修医96名、医学部学生7名、招待者65名（非会員35名、名誉会員15名、特別会員15名）計2,271名に加えて主催者関係113名、総計2,384名の参加者が集う盛大な会となりましたが、学会開催前日と終了翌日は雨ながら会期中は晴れと天候にも恵まれました。

「分化と統合」を掲げる本総会は準備段階でプログラム委員の先生方をはじめとして実に多くの先生方にプログラムのアイデアをお寄せ戴きましたが、会期中も「統合」を目指し、岡山大学消化器外科教室、広島大学消化器・移植外科教室、四国がんセンター、県立広島病院外科、福山医療センター外科、福山市民病院外科の各施設に各会場の運営にあたって戴きました。多くの先生方の支えでこの会が成就できましたこと、あらためて感謝を申し上げたいと思います。

本総会では可能な限り領域毎に会場を固定しましたが、会員の皆様の利便性に少しでも貢献できたのではないかと思います。

初日に「胃癌治療ガイドライン第5版に向けて」と「最近の臨床試験結果の紹介」のふたつのplenary session を設けましたが、会場は開始前から超満員となり急遽椅子を90ほど追加しましたが、多くの立ち見を余儀なくされ申し訳ない思いでした。会員の皆様方の関心の高さを実感致しました。

本総会ではESD 研究会が日本胃癌学会の附置研究会として再組織されましたが、充実した内容の本研究会には立ち見が出るほど多くの聴衆が集まりました。本研究会の設立がESD の更なる発展の契機となることを願ってやみません。

特別企画1の「日本胃癌学会による臨床試験の品質向上の試み ～研究者主導臨床試験の持続可能な体制整備のために～」は本総会の最大の目玉企画でした。官民が同じ場について、現在の最大関心事のひとつであるこのテーマについて真摯な論議を行うことができました。今後に大きな影響を与えるものと思われます。

「胃癌の歴史」も会長の思いをこめたセッションでした。Billrothに始まり現在のガイドライン、EBMの時代に至るまで我が国の胃癌治療にとりエポックメイキングなテーマを選び、証人にその歴史を語って戴きましたが、大きな反響を呼びました。

「教育映像 私のこだわりの手技」も聴衆が溢れかえった会場でした。このような教育セッションのニーズの高さをあらためて実感致しました。

チーム医療の時代を鑑み「胃癌治療におけるチームビルディング」「ESDにおける周術期管理 ～私たちの工夫～」 「胃癌治療における栄養サポートに実際」などの看護師、薬剤師、栄養士等々が応募・参加できるセッションを用意しましたが、期待通りの論議が展開されました。今後の学会の方向性のひとつを示すものと思われます。

第86回総会に引き継いでVirtual Cancer Boardを行いました。アンサーパッドを取り入れ、聴衆の意見が反映される方法をとりましたが、多くの内科の先生方の参加も戴き会場では院内カンファランス並の積極的で忌憚のない意見が飛び交いました。

海外からの演題は非常に質が高く、International Sessionは大きな盛り上がりを見せました。本邦の歩むべき方向性も示した論議ではなかったかと思われます。

主題は食道胃接合部癌、大動脈周囲リンパ節郭清、**conversion therapy**などに大きなスポットをあてましたが、期待どおりの実り多い論議が展開されました。そして、「2nd line 化学療法をどうするか ～諸臨床試験の結果をふまえて～」と「高齢化社会に向けたこれからの胃癌治療戦略 ～治療すべきか経過観察か～」には多くの聴衆が集まり、会員の関心事が浮き彫りにされました。

ポスター発表の重視を掲げた本総会でしたが、ポスター発表の時間帯は基本的に他のセッションは閉じましたので多くの参加者がポスターの論議に加わり、そこでは実に熱心な論議が展開され「狙い」はあたりました。そして、広島県知事賞、広島市長賞、会長賞を受賞された演題は大変質の高いものでしたが、閉会式の際にこれら優秀演題の表彰を行いました。

「分化と統合」を掲げた本総会でしたが、各会場で分化し進化させた治療技術が論議の遡上にあがり、統合し新しいものをひとつでもふたつでも産み出す作業が行われ、掲げたコンセプトが各会場で実践されましたことは最大の喜びでした。

これから1年間、各領域で分化がさらに進化し、その成果が第88回日本胃癌学会総会で統合され、日本胃癌学会が更に更に発展していくことを心より祈っています。

第18回市民公開講座のご報告

二宮基樹（広島市立広島市民病院外科）

平成27年3月7日（土）14:00から、広島市の県民文化センターにて『知っておきたい胃がんのお話』-日本胃癌学会がやってくる-のテーマで市民公開講座を開催しました。

時折小雨のぱらつく天気の中、343人の参加者が集まりました。

講演に先立ち、サクソフオン4重奏 CHAM's Saxophone Quartet (シャムズ サクソフオン カルテット)による演奏が行われ、会場の雰囲気は癒されました。



第1部講演では、広島市民病院 二宮基樹副院長が3人の司会を担当しました。



まず、広島市民病院内科特任教授 水野元夫先生が、『今、胃がんは予防から撲滅の時代へ あなたの子孫を胃がんから守ろう』を講演されました。

胃がんはピロリ菌が原因で、胃がんはピロリ菌のいる人から発生すること、ピロリ菌に感染している人でも、除菌治療でピロリ菌を駆除すると胃がんがある程度予防できること、定期健診の重要性について、説明されました。



続いて岡山大学病院 消化管外科講師 西崎 正彦先生が、『胃がん外科の最前線—低侵襲治療の現状と展望—』を講演されました。早期胃癌に対する低侵襲治療としての腹腔鏡手術のお話、最近行われている腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）や、ロボット手術の今後についても説明されました。



最後に 香川大学臨床腫瘍学教授 辻 晃仁先生が『胃がんになったらどうすればいいの— 一番いい治療を受けるために』を講演されました。様々の治療方法の中から、自分にあった最適の治療方法を選択するために、手術や抗がん剤治療を適切に組み合わせた「最も治療効果の高い」治療方法を選ぶことが重要であることを説明されました。



休憩中、再度サクソフオン4重奏が行われた後、第2部では、二宮先生の司会で、市民の皆様から寄せられた質問を各講師が分かりやすく丁寧に回答されました。



全体を通じ、胃癌の予防、手術、化学療法、緩和医療と非常に中身の濃いプログラムでした。

第88回日本胃癌学会総会のご案内

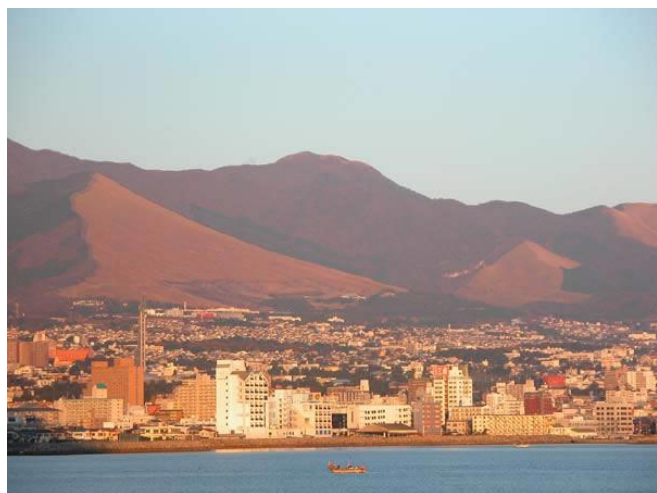
第88回日本胃癌学会総会 会長 佐野 武（がん研有明病院消化器外科）

会期： 2016年3月17日（木）～19日（土）

会場： 別府国際コンベンションセンター “B-Con Plaza”（大分県）

日本胃癌学会会員の皆様。来年の学会総会は、別府です。

温泉地というと、ひなびた山間の町を思い浮かべるかたも多いと思いますが、別府市は人口12万をかかえる文化都市で、年間800万人の観光客が国内外から訪れます。別府湾越しの遠景は「東洋のナポリ」と謳われ、日本最大の源泉数・湧出量を誇る街には、常に湯煙が立ち上っています。会場も立派な国際会議場ですのでどうぞご心配なく。



さて、学会にできるだけ多くの皆様にご参加いただき、多くの演題を発表していただきたいのは山々なのですが、私は一つ、会長として冒険をしてみたいと思っています。会場数を思い切り限定し、大会場でのプレナリーセッションを中心にするのです。多くの会場が同時に進行し、参加者それぞれが興味のあるセッションを選んで知識を磨くというのは、もちろん立派な学会のスタイルですが、胃癌というたった一つの病気を扱う学会ですので、参加者全員が同じ空間で発表・討論を聞き、知識を共有できる場を作りたい。もちろん、恒例のESD研究会や手術ビデオセッション、国際セッションは設けますが、中心はあくまでプレナリーとするつもりです。一方、同じ建物内でポスター会場を広くとり、たっぷりデータを示していただいて掘り下げた議論ができるよう配慮いたします。

現在、皆様に「参加したい」と思ってもらえるようなプログラムを作るべく知恵をしぼっています。どうぞお楽しみに。

なお、学会終了後の日曜・月曜は連休です。別府はもちろん、ちょっと足を延ばして大分県の自然や食べ物を存分に味わっていただければ幸いです。

保険診療検討委員会からのお知らせ

保険診療検討委員会委員長 瀬戸泰之

パクリタキセル毎週投与法は、胃癌治療ガイドラインのアルゴリズムでも二次治療の標準治療の1つとして掲載されており、日常診療でも広く用いられていますが、この度、平成27年3月5日の食品衛生審議会医薬品第二部会において、パクリタキセルの「E法：通常、成人にはパクリタキセルとして、1日1回80mg/m²（体表面積）を1時間かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続し、少なくとも2週間休薬する。これを1クールとして、投与を繰り返す。」について、公知申請を行っても差し支えないとの結論が得られました。これにより、上記のパクリタキセル毎週投与法が正式に保険適応となりました。（厚生労働省保険局医療課長通知 平成27年3月5日保医発0305第1号）

一般社団法人日本胃癌学会定時代議員総会議事録

日時：平成27年3月4日（木曜日）12:35～14:05

会場：リーガロイヤルホテル広島 4F ロイヤルホール①② （第1，2会場）

出席者 理事： 今野 弘之（理事長），大辻 英吾，落合 淳志，小野 裕之，
掛地 吉弘、片井 均、小寺 泰弘、後藤田 卓志、瀬戸 泰之、
寺島 雅典、土岐 祐一郎、朴 成和、安井 弥、吉田 和弘
監事： 笹子 三津留、平川 弘聖
第87回会長： 二宮 基樹
第88回会長： 佐野 武

開 会

定款第16条により一般社団法人日本胃癌学会定時代議員総会が、定款第19条による議長の今野 弘之 理事長の開会宣言で開始された。定款第20条により代議員の過半数が出席することで総会が成立し、定款第22条により書面表決すなわち委任状を認めることになっており、開会時に現代議員総数350名中、出席者140名、委任状85通で計225名は過半数となり、定足数は満たされた。定款第24条第2項の議事録署名人として、神谷欣志先生、藤井秀則先生の両代議員が議長より指名された。今野 弘之 理事長の挨拶があり、議案の審議に入った。

I. 議 題

第1号議案 名誉会員、特別会員の推戴に関する件

議長より定款第6条に則り、名誉会員および特別会員が推戴され、満場一致で承認された。

名誉会員推戴者： 辻仲 利政、梨本 篤

特別会員推戴者： 近藤 建、坂本 純一、田中 洋一、亀岡 信悟、北野 正剛、

鈴木 力、宮崎 耕治 〈敬称略〉

第2号議案 平成26年度庶務報告に関する件

平成26年度の会員数および会費の納入状況に関して、会員数5181名(会員内訳 外科系:80.4%、内科系:17.0%、基礎系:2.3%、不明:0.3%)であり、内科・その他の会員が増加傾向であることが報告された(新入会員264名、退会者140名、長期未納者退会処理122名)。続いて平成26年度の会費納入状況についても報告された(年3回請求、納入率84.6%)。

次に逝去者が報告され、物故者の冥福を祈るために全員で黙祷した。

物故者 6名 (第86回総会以降現在までに事務局に連絡:五十音順、敬称略)

長田 功 (オサダ イサオ)
貝原 信明 (カイバラ ノブアキ) (名誉会員)
河野 至明 (カワノ ノリアキ)
古城 治彦 (コジョウ ハルヒコ)
末舛 恵一 (スエマス ケイイチ) (特別会員)
松下 利雄 (マツシタ トシオ)

第3号議案 平成26年度事業報告に関する件

1) 財務委員会報告 (朴 成和 委員長)

第4号議案および第6号議案に記載。

2) 会則委員会報告 (安井 弥 委員長)

新理事選出後の新理事長選任のための臨時理事会の招集について、代議員の定年について、役員の退任規定について、理事の退任規定について、役員の定数および理事の定数について検討し、第8号議案で会則変更として審議予定である事が報告された。

3) 会誌編集委員会報告 (小寺 泰弘 担当理事)

インパクトファクターの上昇や投稿数の増加などが報告され、厳しい査読の現状が確認された。今後COI規定に関して、ICMJEなどにのっとった申告も検討中である事が報告された。

4) 胃癌規約委員会報告 (落合 淳志 委員長)

胃癌取扱い規約の15版作成に向けた改定委員会の発足が報告され、胃癌学会からの意見を取り入れた内容の検討を行うと共に、UICC・AJCCでの病期分類も加味した改定を行っていく事が確認された。

5) 胃癌登録委員会報告 (片井 均 委員長)

全国胃癌登録の状況に関して報告がなされ、今後2002年からの6年分に関しては論文としての報告を準備中である事も報告された。また次回のガイドライン作成に向けて、残胃癌調査を開始する旨が報告された。登録委員会のデータに関しても、今後の開かれ

た使用を目指して、利用法などを検討中である事も報告された。

6) 国際委員会報告 (佐野 武 委員長)

日韓合同会議と国際胃癌学会の開催に関して報告された。

7) 保険診療検討委員会報告 (瀬戸 泰之 委員長)

特に無し

8) 企画・広報委員会報告 (土岐 祐一郎 委員長)

市民公開講座について第 16 回、第 17 回の開催と本学会終了後の第 18 回の開催予定が報告された。また学会ニュースと Gastric cancer 誌の table of contents のメール配信について確認された。

9) 胃癌治療ガイドライン作成委員会報告 (佐野 武 委員長)

ガイドライン第 4 版の出版と今後の第 5 版の編集に向けた取り組みが報告され、特に化学療法に関してはできる限り早急な学会として意見統一の意向が確認された。オキサリプラチンなどの使用に関しては、今後速報の形で情報配信を行う旨が朴理事から報告された。

10) 胃癌治療ガイドライン評価委員会報告 (掛地 吉弘 委員長)

第 4 版に対する意見をアンケートの形で集積予定である事が報告された。

11) 代議員選挙管理委員会報告 (掛地 吉弘 委員長)

特に無し

12) 非選挙代議員選考委員会報告 (今野 弘之 委員長)

特に無し

13) 倫理委員会報告 (安井 弥 委員長)

研究推進委員会が認めた研究課題に対する倫理委員会の役割に関して、今後改めて検討していく事が報告された。

14) 研究推進委員会 (吉田 和弘 委員長)

委員会として扱う研究課題の種類と現在進行中の研究に関し報告がなされ、新たな 4 つの研究課題についても紹介・報告がなされた。今後、費用面と倫理委員会との役割分担に関しても継続審議していく事が確認された。

15) 利益相反委員会報告 (小寺 泰弘 委員長)

今後胃癌学会として COI 規定に関して検討を進め、啓蒙活動も行っていく事が報告された。

16) 将来構想検討委員会報告 (大辻 英吾 委員長)

理事数割合の是正に向けて理事数の増加を行う事、役員の方定年を明記する事を理事会に提案して承認され、第 8 号議案の定款施行細則の変更をもって代議員会の承認を得る予定である事が報告された。今後は女性代議員の割合の是正に関しても検討中である事が報告された。

17) プログラム委員会報告 (寺島 雅典 委員長)

第 86 回総会に関してアンケート調査を実施し本学会への提案を行った事、また本学会においても調査を行い、次回学会への提言を行う事が報告された。

18) 総務委員会報告 (吉田 和弘 委員長)

取扱い規約などの商業的な利用に関する収入の増加と会費納入のオンライン化・コンビニ支払いの開始について報告がなされた。

第 4 号議案 平成 26 年度収支決算報告に関する件 (朴 成和 理事)

「一般社団法人日本胃癌学会」の平成 26 年度財務諸表及び収支計算書が提出された。正味財産として、平成 26 年度は前年度に比較して約 1200 万円程度増加したことが報告された。内容としては、収入に関しては約 650 万円の減少であったが、支出としても約 1400 万円程度の縮小が可能となった事が報告され、笹子 三津留監事、平川 弘聖監事の監査を受けたことが報告され満場一致で承認された。

第 5 号議案 平成 27 年度事業計画承認の件 (今野 弘之 理事長)

以下の事業内容が示され、代議員会にて満場一致で承認された。

- 総会の開催
- 会誌発行
- 日本胃癌学会学会賞(Nishi Memorial Award)
- 「胃癌取扱い規約」の改訂作業
- 「胃癌治療ガイドライン」の改訂作業
- 胃癌登録事業
- 胃癌登録データの解析
- 国際胃癌学会への協力
- 市民公開講座の開催
- その他各種委員会活動

第 6 号議案 平成 27 年度補正予算案、平成 28 年度予算案承認の件 (朴 成和 理事)

平成 27 年度補正予算案ならびに 28 年度予算書案が提出された。概ね例年と同様に予算が組み、収入に関しては平成 27 年度、28 年度ともに 6000 万円程度が見込まれることが報告された。支出に関しては、学術研究費支出が予定の 500 万円から 1400 万円に増加しているが、これは平成 26 年度に実施予定であった研究が本年度に繰り越された影響である事(内訳：癌登録関連 500 万円、カルチノイド研究 200 万円、NCD 研究 300 万円、200 万円×2,)、また事務委託費支出が予定の 420 万から 670 万円に増加しており、これは会費納入のオンライン化の導入や維持にかかる費用の影響である事が報告された。その結果、平成 27 年度補正予算としては約 1000 万円の赤字予算であり、平成 28 年度は約 500 万円の赤字予算となることが報告された。本予算案の見通しとして、

収入はやや厳しく、支出はある程度の幅を持たせた見積もりを立てており、実際の決算としての赤字は予想を下回るものと考えられることも合わせて報告された。平成 27 年度、28 年度の総会予算も提出され、総会予算としては独立して収支 0 の見込みである事が報告された。以上の報告の後、平成 27 年度補正予算案・28 年度予算案共に満場一致で承認された。

第 7 号議案 第 88, 89 回会長選出, 選任に関する件

次期会長（第 88 回総会会長）候補者として佐野 武先生（がん研有明病院消化器外科）が満場一致で承認された。また次々期会長（第 89 回総会会長）候補者として安井 弥先生（広島大学大学院分子病理学）が満場一致で承認された。

第 8 号議案 定款施行細則変更の件（安井 弥 委員長）

定款施行細則の変更に関してその理由、内容の説明がなされた。定款施行細則第 1 号第 9 条の 5 に関して理事の定数を 14 名から 16 名に変更する事、第 11 条の 5 に関して理事長は新理事長決定のために定時総会中に新役員を構成員とする理事会を招集できる様に変更する事、第 12 条 4 項への役員資格喪失要件の追加、第 24 条 3 項への選挙代議員の定年の明記、第 30 条 4 項への非選挙代議員の定年の明記、の 5 点が説明され、満場一致で承認された。

第 9 号議案 次回総会開催時期および開催地に関する件

第 88 回日本胃癌学会総会

会 長： 佐野 武（がん研有明病院 消化器外科）

会 期： 平成 28 年 3 月 17 日（木）～3 月 19 日（土）

テーマ： 世界の胃癌, アジアの胃癌

会 場： 大分県別府市、別府国際コンベンションセンター

第 89 回胃癌学会総会会長 安井弥先生からご挨拶

その他

松原久裕代議員から、医療安全の面から見た胃癌学会としての今後の胃癌に対する腹腔鏡手術の推進について質問がなされた。現段階では、医療安全の面での学会としての正式な議論はなされていないものの、ガイドラインとして推奨されるのは早期癌に対してのみであり、今後も新たなエビデンスが得られるまでは現在の立場を保ちながら、さらなる議論を進めていく事が確認された。

第 87 回日本胃癌学会総会会長 二宮基樹先生からご挨拶

II. Nishi Memorial Award (西記念賞 表彰式)

西記念賞授与式が挙行され、賞状と賞金目録が今野弘之理事長より受賞者に授与された。
受賞者ならびに受賞論文

1. 熊谷 厚志 先生

Multicenter study evaluating the clinical performance of the OSNA assay for the molecular detection of lymph node metastases in gastric cancer patients.
Gastric Cancer 17(2); 273-80

2. 黒川 幸典 先生

Validity of response assessment criteria in neoadjuvant chemotherapy for gastric cancer (JCOG0507-A).
Gastric Cancer 17(3); 514-21

3. 八尾 建史 先生

Diagnostic performance and limitations of magnifying narrow-band imaging in screening endoscopy of early gastric cancer: a prospective multicenter feasibility study.
Gastric Cancer 17(4); 669-79

閉 会

すべての議案が終了し、議長により閉会が宣せられた。

以上

議長(理事長) 今野 弘之

議事録署名人 神谷 欣志

議事録署名人 藤井 秀則